

処女水

作・演出 北村想

CAST

佳穂かこ 小林正和 木村庄之助 田中知砂 金原祐三子 段丈てつを
 中島由紀子 千葉ヘイトン 井上美穂 小林隆朗 土居辰男
 富田亜希 中西康朗 あべかずえ ススキナコ 平塚直隆

原始の水に浮かんだ美少女の屍体ひとつ。
 「進化論」はいまミステリーになった。

伊丹 AI・HALL 自主企画VOL.118

10月6日(土)・7日(日)

AI・HALL

主催/伊丹市・(財)伊丹市文化振興財団

名古屋 名古屋市民芸術祭2001主催事業

10月19日(金)~21日(日)

名古屋市芸術創造センター

主催/名古屋市民芸術祭実行委員会・名古屋市

名古屋市教育委員会

(財)名古屋市文化振興事業団・プロジェクト・ナビ

東京

2002年2月8日(金)~10日(日)

シアター・トラム

共催/くりっく 世田谷文化生活情報センター



Project Navi 21
 文化庁・名古屋市民芸術祭実行委員会
 伊丹市・名古屋市教育委員会

STAFF

【舞台美術】北村想
 【照明】石倉福雄 安藤義徳
 【作曲】ノヤママナコ
 【音楽】ノヤママナコ 細川ひろあ
 【衣装】ZAPPERS
 【小道具】Galerie Agée
 【舞台監督】永井優二 小林隆朗
 【宣伝美術】下野亮夫
 【写真】根本輔成
 【制作】あべかずえ 金原祐三子 中島由紀子
 【制作協力】津村希 小畑純
 【企画製作】プロジェクト・ナビ



プロジェクト・ナビ

〒468-0052 名古屋市長区井口二丁目902

☎052(807)2540 FAX052(807)2541

PROJECT NAVI PRESENTS 66

処女水

作・演出 北村想

CAST

佳梯かこ 小林正和

木村庄之助 田中知砂

金原祐三子 段丈てつを

中島由紀子 千葉ヘイトン

井上美穂 小林隆朗

土居辰男 富田亜希

中西康一朗 あべかずえ

スズキナコ 平塚直隆

AI・HALL自主企画VOL.118

AI・HALL アイ・ホール
☎0727(82)2000 (JR伊丹駅前)

10月6日(土) 3時/7時

7日(日) 2時

※開場は開演の30分前

整理番号付き自由席

前売3000円 当日3300円

高校生以下、前売・当日とも1500円(要学生証)

主催 伊丹市/(財)伊丹市文化振興財団

前売開始

8月18日(土)

電話予約・前売券のお求めは

チケットぴあ☎06(6363)9999

AI・HALL☎0727(82)2000

お問い合わせ

AI・HALL☎0727(82)2000

プロジェクト・ナビは研究生を募集します。

応募の方は返信用封筒(80円切手貼付)同封の上、
履歴書を下記住所まで郵送して下さい。(締切2月末)



プロジェクト・ナビ

〒468-0052 名古屋市天白区井口二丁目902

☎052(807)2540 FAX052(807)2541

home page http://homepage2.nifty.com/project_navi

このチラシは、再生紙(古紙配合率40%以上、白色度70%以下)を使用しています。

とある発表会の打ち上げの宴席で、次の私の作品のことが話題になったんですけども、それが『処女水』ってタイトルなもんだから、みなさん、なんかエロチックな内容のものなんじゃないかと思っ
てらしたらしいんですね。

まあ『処女』の『水』ということですから、なんかね、邪推というか、連想しようと思えばそれは無理からぬことなんですけど、これがその人間の処女の話じゃないんですね。

新しい船が航海するとき、処女航海とかいうじゃないですか、あれとまあ似たような似てないようなもんでして『処女水』というのは、原始の水ということなんです。

で、これは、タイトルはゴジラの原作者で知る人ぞ知る、香山滋さんの『処女水』からいただいてきたもんで、モチーフになったのもその作品です。

シチュエーションも、ついでにいただいてきて、とある研究所に原始の水をためてある水槽があるんです。ここで、一人の女性が水死体で発見されます。

というと、ミステリーかということ、そうなんです。『処女水』はミステリーなんです。とはいえ、ただのミステリーではなく、私なりに「進化論」をミステリーにしてみたらどうなるだろうかなと、思い立って、人間の死と進化について、なんていう何だか難しそうなテーマというヤツで書いたものです。

もっとも、もともとそんな壮大なるテーマがあって書き始めたわけではなくて、いつものごとく、何を書いてんだかなあなんて、首ひねりながら書いてたんですけど、どうやら、これは、進化と死についてのミステリーを書いているんだなああと、わかってきたと、まあそんな具合です。

「ミステリーと演劇で世界は記述できる」というのが、私のたてた命題なんですけど、それを今回は、舞台上で実現させてごらんにいます。ミステリーですから、たぶん面白くご覧になれると思いますよ。

北村想